

オンラインで若者会議

総合計画を策定するためにオンラインで市民の意見を聴集する会のお手伝いをしました。参加したみなさんは、オンラインでの話し合いに慣れていらして、オンライン会議が広がっていることを実感しました。また、Uターン、Iターンで地方に移住する人も増えていることを体感できました。

☆総合計画策定のために

自治体の総合計画を策定する際に、市民の意見を取り入れるのは当たり前になってきています。しかし、コロナ禍の中で、市民参加が進みにくいのでは？と懸念していました。ところが、そんな中でも、オンラインを活用して市民の意見を聴こうという自治体も増えてきたようです。

その中でも特に若者であれば、オンラインにも抵抗ないのでは？と開催されたワークショップをお手伝いさせていただきました。

☆若者だけでなく

今回の対象年齢は50歳以下。26000人の自治体で8人も参加してくださいました。しかも、ネットでヒットしたという方もいらっしゃいました。

参加した若者8人のうち、Uターンしてきたのが3人、嫁いできた方1人、そのまち出身で現在は東京に住んでいる方が1人でした。

意見交換は活発に行われました。どんな話し合いになるのか興味をもって傍聴していた首長さんは、市民活動をしていらした方でしたので、はじめはみなさんの意見を聴くことに徹していらっしゃいましたが、ついには参加者の方々と一緒に語り合うという、楽しい時間になりました。

☆終了後には

せっかく参加してくださった方々のつながりをつくっていきたいという思いもありました。どうしたら、つながりをつくれるのか？と考えたのが、意見聴集の後、名刺交換のようなことができる（facebookやLINEを交換する）時間を30分ほどつくっておきました。

ところが、話が盛り上がり…1時間たっても会を閉じることができないくらいでした。



*コロナ禍のお陰で、東京に住んでいなくても仕事ができると思い、地方へ移住する人が増えているそうです。今回のことでわかったのは、移住した人は地域になじみたい、地域のことに参加したい、何かしたいと思っている人が案外いるということでした。今まで現役世代にまちづくりに関わってもらうには？を考えてきました。トレンドが変化しつつあるような気がします。

こんな体験をさせていただいたことに感謝しています。

